

## はじめに

大阪府は、「府民がつくる暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市」を目指し、2011年（平成23年）3月に策定した「大阪21世紀の新環境総合計画」に基づき、幅広い環境事象への取組みを着実に進めてまいりました。「大阪府環境白書2020年版」及び「おおさかの環境2020」は、2019年度（令和元年度）の大阪府の環境の状況や取り組んでいる施策について府民の皆様に分かりやすくお伝えするため作成しました。

2025年大阪・関西万博の開催が決まり、SDGs（国連の持続可能な開発目標）の目標年である2030年に向けて、環境を含めた様々な課題について取組み、持続可能な社会の形成に向けた地域の力を世界に発信すべき重要な10年間を迎えることとなりました。

2019年（令和元年）6月に開催されたG20大阪サミットにおいては、2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロとすることをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有されました。世界的な環境課題に対処するビジョンがここ大阪で共有されたことは画期的であると同時に、その早期実現に向けて大阪が率先して取り組むことが期待されているとも言えます。2020年（令和2年）2月には、大阪府と大阪市が共同で内閣府の「SDGs未来都市」に申請して同年7月に選定され、そのモデル事業としてプラスチックごみ対策に取り組む、環境・社会・経済の統合的向上をめざすこととしています。

また、危機的状況ともいえる気候変動問題に対しては、2019年（令和元年）10月に、大阪府として、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすことを表明しました。その後も全国の自治体で同様の表明を行う「ゼロカーボンシティ」の動きが広まりました。そして2020年（令和2年）10月、菅内閣総理大臣が所信表明演説において、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざすことを表明し、国の政策の大きな転換点となりました。

一方、2020年（令和2年）には新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりにより、社会は大きな影響を受けました。感染症予防を講じながら社会活動を行うとともに、社会・経済を復興させていくうえでも、環境は欠かせない視点であり、巻頭特集では身近な視点から環境に配慮した生活や働き方を見直す話題についてまとめました。

このような世界的、長期的な環境課題に対する動きを踏まえ、今後とも大阪府は、豊かな環境の保全と創造に取り組んでまいります。そのためには、行政はもとより、府民や事業者のみなさまと力を合わせて取り組むことが重要です。本書が、将来に向けてより良い環境づくりの一助となれば幸いです。

2020年12月